

国益が損なわれる事態を看過できない

計上された莫大なカネはどこへ消えたのか？
国民の代表として徹底追及する

衆議院議員 ●まつばら・じん 松原仁

中国遺棄化学兵器の問題には、大きく分けて二つの疑問点があると思います。

ひとつは、政府が莫大な経費をかけて処理事業をやっているが、その金額が果たして妥当かどうかと言う点。もうひとつは、そもそも、中国の残されている化学弾が本当に日本がすべて遺棄したものなのか、つまり、すべての処理を日本の責任で行う必要があるのか、という点です。私はこの二つの点で、この処理事業には大いに疑問があり、このまま中国の「言いなり」になって事業を行えば、日本の国益が大きく損なわれる可能性が高く、看過できないと考えています。

◇ 苅田港の処理費用は「一発千三百万円」

平成十二年、福岡県の苅田（かんだ）港で行った海中探査で、化学弾を含む旧日本軍の砲弾が発見され、十五年度以降、その処理事業（無害化処理）が行われています。受注したのは神戸製鋼でした。その処理費用は単純計算で、一発あたり一千万円以上も掛かっています。だが、それだけの巨額の税金を投入しているのにも拘わらず、積算根拠は必ずしも明確にはなっていません。また、それは国会での私の質問に対する政府側の次の

答弁を見ても、明らかです。

●十月二十六日、衆院外務委員会でのやりとり（要約）

—松原議員 福岡県の苅田港から化学弾発見がされたわけでありますが、このことについての調査というのは、これはどこの会社が行ったのでしょうか。

防衛省・高見澤将林運用企画局長 苅田港で発見されました化学弾の無害化処理事業につきましては、神戸製鋼と契約をしております。最初是一般競争入札契約によりまして平成十五年十一月に、そして二期目は随意契約によりまして平成十六年十二月に契約を締結しております。

す。

—松原議員 一般競争入札で最初入札するとき、どれぐらいの値段が適正かということ、事前に何かの調査をしないで、これは最初は防衛省ですか、これがこのぐらいだというふうなイメージを持たれたんですか、それとも、どこかに調査をさせて、それで、まあ大体これぐらいだろうというイメージの中で競争入札をさせたのか、お伺いしたい。

同・長岡憲宗経理装備局長 予定価格を算定する場合でございますけれども、私どもは、業者さんから見積もりを出していたございまして、それから、そのほか市場価格等も参考にしながら、当省におきまして担当のところ、積算をしたというございまして、お伺いいたします。

松原仁氏 昭和31(1956)年7月、東京生まれ。早稲田大学商学部卒。松下政経塾を経て、平成元年、東京都議に当選(2期)。12年の総選挙で、東京3区から民主党公認候補として初当選(当選3回、現在は比例代表東京ブロック選出)。衆院外務委員会委員、拉致議連事務局長代理。

—松原委員 すると、この積算根拠というのは、業者から出てきた見積もりとか、そういうのを見ながら積算根拠を算定したということですか。

長岡局長 そういうことを参考にさせていただきました。それから、平成七年度から十二年度にかけて、北海道の屈斜路湖において化学弾が発見されました、これを処理した実例もございまして、そういうことも参考にさせていただきました。

(略)

—松原議員 神戸製鋼が競争入札をしたときは、何社入札しましたか。入札した会社の名前を教えてください。

長岡局長 お尋ねは、無害化処理事業についてだと思えます。平成十五年度に一般競争を行いました、株式会社神戸製鋼所、JFEエンジニアリング株式会社の二社が応札をいたしております。

—松原議員 二回目からは随意契約になった、その経緯を教えてください。

高見澤局長 化学弾の無害化処理というものは地域住民の安全、安心にかかわ

りますので、化学弾による被害を未然に防止するため、可能な限り早期に処理を実施する必要があるところでございまして。そして、先ほど申し上げましたとおり、第一期は平成十五年十一月に契約をいたしましたけれども、第二期に当たってどうするかということでございますけれども、第一期に処理施設をつくっておりました、それを引き続き使用して早期に処理を行うという必要がございました。この処理施設をほかの社が譲り受けて使うということではできないということでございますので、できるだけ早く処理をするということで、神戸製鋼所との間で随意契約を実施したという経緯がございまして。

—松原議員 必要処理施設を神戸製鋼が所有していた。建設をするときの費用等はどのような形で捻出されているのか、簡潔にお答えください。

高見澤局長 最初に神戸製鋼が実施いたしましたときに、役務の内容でございましてけれども、化学弾の海中からの揚収と輸送、それから処理のための保管処理

施設の建設、化学弾の一時保管と処理と
いうことで見積もられておりました、こ
の中にそういった経費も含まれてござい
ます。

—松原議員 その契約のあり方も、ち
よつと私はいろいろと疑問を感じるとこ
ろもあるのですが、時間の都合があるの
で、ちよつと確認します。

そうすると、屈斜路湖の件に関して
は、積算根拠はもう文書がない、苅田港
のものに関しては、積算根拠は、応札さ
れた例えば神戸製鋼とか、そういったと
ころの資料によって積算根拠を正しいと
したという認識でよろしいんですか。

長岡局長 業者さんから見積書の提出
は受けまされども、それをうのみにす
るといふわけではございませんで、市
場価格、それから、当省におきましてそ
の担当官が査定を加えて積算をいたして
おります。

—松原議員 市場価格というのは、具
体的にどういふことですか。

長岡局長 一般的な言葉を使わせてい
ただきましたけれども、例えば、施設整

備とかそういうものもございしますので、
そういったことについてはそういった市
場価格はあろうかと思っております。

—松原議員 それならば問いますが、
例えば、苅田港の場合は、第一期は平成
十六年、第二期は十七年で、五十七発が
最初は二十一億三千九百八十五万円余な
んですよ。それで、五百三十八発処理し
た第二期、十七年が五十六億四千七百三
十六万なんです。第二期に関しては、
既に基本的に施設はできていますから、
施設の中でも、例えば爆破処理をする
か、さまざまな処理のことによって常に
変えていかなきゃいけない部分もあろう
かと思えますが、基本的に、これを計算
すると、施設が幾らかというのは大体数
学でわかるわけですよ。

それで、さらにそれが国土交通省に移
管された後のデータを言いますと、これ
は無害化処理業務で六百五十九発が平成
十八年、これが六十九億七千三百万。十
九年は七百発、これが六十八億七千七百
五十万というふうなことでありまして、
大体、約一発一千万ですね、簡単に言う

と。屈斜路湖のときは単純計算すると三
千万だけれども、その後は一発一千万。
一発一千万ということで基本的に認識し
ておりますが、いかがですか。

高見澤局長 化学弾の処理につきまし
て、単純にいろいろな条件の違いを無視
して計算するということではできないかと
思いますけれども、防衛庁が処理しまし
た分について申し上げれば、単純計算を
いたしますと、大体一発千三百万円程度
になるといふふうには承知をしております。

—松原議員 これは通年で、平成何年
に何発処理して幾らと出てきているんだ
から、大体、一発一千万強なんだね、一
千三百万という話も今あったけれども。
そうすると、この一千三百万が妥当で
あるという積算根拠というのがどこかに
なきやいけないんだ。建物があるとか、
あれがあるこれがあるという議論はある
けれども、一千万を超えるのが積算根拠
としてあるような資料を出していただき
たい。一千三百万というのが非常に高い
んです。

中央省庁再編で「資料がなくなつた」

政府はこれだけの巨額の税金を注ぎ込んでいるのに、海外などほかの事例については事実上、調査していないのです。業者の言い分をほとんど丸呑みしているに過ぎません。

実は、苅田港の前の平成八年以降、北海道の屈斜路湖でやはり化学弾の無害化処理事業が行われているのですが、こちらには二十六発を処理するのに約八億円かかってます。単純に割ると、一発三千万円です。この「三千万円」という数字が、以後の事業の言わば「ペース・メーカー」になったわけです。中国側も、この屈斜路湖での「実績」を見ていたに違いありません。

「日本はこの事業において、大盤振る舞い」をしている。中国での処理事業の費用も、このセンに沿って要求したらいい」と考えたとしても不思議ではないのです。中国は、日本で勝手に「相場」をつり上げてくれた、と感謝しているかも

しれません。

しかし、この「三千万円」積算根拠を示すように、政府側に求めたら、驚くべき答えが返ってきました。平成十三年の中央省庁再編の際に、関係書類が散逸してしまい、「資料が見つからない」というのです。まさに、開いた口がふさがりません。

●同・外務委員会

—松原議員 この屈斜路湖においては、どういふふうな受注と経緯があつたか御説明をいただきたい。

総務省・須江雅彦大臣官房審議官 平成八年五月に屈斜路湖で発見されました旧軍の化学弾の処理に関しましては、内閣官房で関係省庁による連絡会議を開催し、関係省庁連携のもと、化学兵器禁止条約に基づき、当時の総理府が中心となつて廃棄を行ったところでございます。当該化学弾の無害化の処理につきましては、当時の総理府が平成十二年九月から同年十一月にかけて行ったと承知しております。

平成十三年の中央省庁の再編によつ

て、当該廃棄処理の決算事務を総務省が引き継ぎまして、決算事務処理を行つておりますが、お尋ねの本件受注の経緯等に関しましては、現在関係書類を調査中ですので、まことに恐縮でございますが、この場でお答えすることはできないことを御理解いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

—松原議員 私が知る範囲では、化学弾が二十六発引き揚げられた、約八億円前後でこれが受注された。このことはおおむね合っていますでしょうか。

須江審議官 さようでございます。

—松原議員 この破碎処理といいますが、無害化処理のための施設をつくるための経費も必要ですが、単純に八億円を二十六発で割ると一発三千万ぐらい、こういうことになると思います。今資料がないというお話でしたが、私は、実はこの最初の段階で、大体、費用の値ごろ感というのが与えられたのではないかと率直な印象を持っております。

したがって、今すぐにはこの資料を出せないということですが、早い段

階で何とか資料を見つけてもらって、どのような積算根拠によって二十六発の化学弾の屈斜路湖における処理が八億円で行われたのか、そのベースとなる積算根拠を出していただきたいと思いますが、よろしいですか。

須江審議官 中央省庁再編をまたいでおりまして、書類が今どこにあるかを確認しておりますので、見つかりましたら適切に処理させていただきます。

—松原議員 今、政治というのは、我々政治家も一円単位からということをやっております、これはもちろん、公的なものにかかわるものはすべてそうであらうと思っております。国の無駄遣いも、年金をはじめとして、これはもう厳しく一円から見ているんじゃないかというものが時代の趨勢です、まして一発三千万。一発というのは、これはどれぐらいの大きさなのか。大臣は見たことありますか。黄弾とか赤弾とか、実物。これぐらいのイメージだとか、ちよつと手を広げてください。

高村正彦外相 見たことはございませ

ん。

—松原議員 めちゃくちゃな、中国に至っては百六十億、七十億かけているんだから、物がどんな大きさなのか。例えば、これぐらいのものの一発の処理に三千万というと、電気洗濯機だつてこれぐらいだったらそんな三千万もしないわけだから、三千万するというのはとんでもないことなんだよ、それを一発処理するのに。だから、これは、やはり国民の立場に立つたならば、きちつと積算根拠を出してほしい。もう一回、確認します。

の巨額の費用を掛けているのです。最初、私はこの費用には、化学弾の探査費用が含まれているのか、と考えていましたが、そうではなかった。「調査・研究」だけの費用です。

須江審議官 現在、資料を確認中ですので、見つかりましたら適切に対応させていただきます。

一方、先に挙げた福岡県の苅田港での処理事業における「調査・研究」に掛かった費用は、数千万円程度に過ぎません。どうみても、日本より中国の方が物価が安いのに、どうしてこんな巨額な費用がかかるのか疑問です。

◆中国では調査だけで百六十億円

この問題で莫大な費用を掛けているのは、処理事業だけではありません。内閣府の遺棄化学兵器担当室によると、中国での処理事業を進めるにあたって、さまざまな「調査・研究」を行い、それだけでトータルで百五十七億二千七百万円も

内閣府から、こうした「調査・研究」事業を受託した中には、先日、東京地検から強制捜査を受けたPCIなども含まれています。こうした費用が本当に必要な経費だったのかどうか、改めて精査する必要を感じています。ところが、私が百五十七億円の詳しい内訳を記した資料を内閣府に要求すると、「捜査当局にすべて押収されてしまった」というのです。PCIのようなところになぜ委託するのか、まったく理解ができません。

●同・外務委員会

長岡局長 (苅田港の) 調査委託研究

でございますが、平成十四年度でございますまして、契約額は九百万円でございます。

—松原議員 調査の内容に関して、簡略に教えてください。例えば、それに関して積算というものも行われたのかどうか、積算根拠というものもあるのかどうか、お伺いしたい。

高見澤局長 まず一つは、処理技術は、本件に適した安全確実な処理方法は爆破、燃焼法であるということ。それから、二点目でございますけれども、環境保全、作業環境につきましましては、一定の立入禁止区域等を設けること。三点目でございますが、処理場所は、浮体構造物、メガフロートの利用は必ずしも適当ではなく、既存の護岸等を活用し、海上に栈橋的な構造物を建設することが現実的であること。以上でございます。

長岡局長 予定価格の算定でございますけれども、これにつきましても、業者さんから見積書を出していただきまして、それを参考にさせていただきまして、当方で積算をいたしました。

—松原議員 内閣府は（中国の）遺棄

化学兵器の方は、調査研究はどこに委託しましたか。

内閣府・西正典遺棄化学兵器処理担当室長 内閣府の方、遺棄化学兵器の処理に関する調査研究にしましては、平成十五年まで各種行っております。その際の調査研究にしましては、国際問題研究所等いろいろな機関に出しておりますし、また、その内容にしましては、単に処理だけでなく、埋設砲弾の発掘、回収の技術、また、処理に際しての化学剤の分析そのほか、多岐にわたるものが支出されております。

—松原議員 内閣府の遺棄化学兵器処理担当室からペーパーをもらっているんですよ。「調査研究等にかかる経費の内訳」。トータルで百五十七億二千七百万円でございますが、これは全部、分析とか構想とか計画とか評価とか調査とか。調査というのは、例えば爆発リスク調査、もしくは混合調査、例えばピクリン酸基礎実証実験等とかいろいろがあるんですが、探査はこの百五十七億の中に入っているんですか。確認します。

西室長 ただいま先生お尋ねの件が、中国の現地における探査か、こういうことでございますでしょうか。そうしますと、ちよっと記録をもう一度確認させていただきますが、そういった経費は基本的に入っておらなかったものと思っております。

—松原議員 簡単に言うと、防衛庁の方の福岡県荻田港のものについては九百万で調査研究が行われている。九百万です。九百万で調査研究が行われていて、確かに探査というものは、例えば神戸製鋼が別にやっているわけですよ。例えば探査試験とかも別にやっています。が、しかし、基本的にはこの探査試験で、実証試験なんかは例えばこれは千六百五十八万四千円ですから、金額的に。そうすると、探査というもので、例えばこの神戸製鋼は、二億九千二百九十五万円とか十七億八千三十八万円とか、探査なんです。探査というのは、これはそれなりにお金がかかると思うんですよ、時間もかかるし。こちらの国問研に出した方の、そういったところを中心にして

出した方の調査は、探査が入っていない調査で百五十七億二千七百万円。

片っ方は九百万という答えであります。九百万に若干入れたとして、これは千六百五十八万を入れても二千五百万です。百五十七億二千七百万、片っ方はベース九百万ですからね。いかに何でも、これは説明がつかないと思う。

そこで、きょうは時間がないので後日に回すかもしれないけれども、これは十二年度、十三年度、十四年度、十五年度、もらいました。それぞれの、例えば十二年度は十億九千九百万、それから十三年度が三十八億九千七百万。個別の項目が、廃棄処理基本何とか計画とか、要は、基本的に計画とか実験とか、こういうものだけなんだよ。何でこんなにかかっているんだ。個別の中身を教えてほしい。

西室長 今おっしゃるのように、探査の部分が入りませんが、これがハルバ嶺の山中に埋まっておる。その山中に埋まっておるものを合理的に掘り出すための機械設備をどうつくるか、そういった実証

実験から始まってあります。その発掘、回収、爆破、その後の後処理、すべてが入って、今先生御指摘のこの金額になっております。

また後ほど、その一々、どのような実験を行ったのかについては御報告させていただきます。単に爆破処理の部分に限らず、発掘から始まる一連の中国におきます遺棄化学兵器処理に関するすべての技術に関し、かつ、単に書面上ではなく、現実にパイロットプラントを設けて研究する、そういったこともございますし、さらに申し上げれば、当初この事業が起こりましたときには、ピクリン酸塩の過敏反応そのほか、全く未知の分野がございました。そういったところにも相当程度、私ども意を用いて作業したような次第でございます。そういった多岐にわたる研究分野であるということだけ御承知いただければと思います。

—松原議員 はっきり言ってべらぼうですよ、この数字。まじめな顔をしてお答えになるけれども、べらぼうな数字で、探査をしていないんですよ。僕は最

第398回 正論を聞く集い!

講師：中村 粲氏(獨協大学名誉教授)

テーマ：「沖縄集団自決とNHK」

日時●12月22日(土)午後2:00~4:00

会場●大手町サンケイプラザ・3階

会費●一般1,500円・学生1,000円

お問い合わせ・主催・正論の会
(代表・三輪和雄)

〒106-0032 東京都港区六本木3-4-5-505
TEL: 03 (3505) 6585

初、これは中国全土の探査は入っていると思っただ。それでも高いなと思っただけれども、探査が入っていないんですよ。すべて、本物をつくるための調査ですよ、実験調査であり何とか調査であり。具体的な掘るものをつくって云々じやなくて、その調査ですよ。それが百五十七億ですよ。防衛省がやっている方は、これは確かに、逆に言えば実験が若干抜けたりはするけれども、九百万ですよ。実験を入れて二千五百万。これは実験を入れて百五十七億。中国の方が日本より物価が全然高いのかもしれないけれ

ども、百倍ぐらい中国の方が日本より物価が高かったらこういうこともあり得るかもしれないけれども、高いわけないでしょう。私はこれをもらったときに目が丸くなったんだ。点になると言うのかな、日本語だと。おかしい、こんなことで何で百五十七億なんだと。一つ一つじっくりとチェックをさせてもらいたい。

こういうことに関して、大臣、最後に一言お伺いしますが、こういう極めてアバウトな、探査も入っていないんですよ、百五十七億、調査費だけですけれども、これはどう考えたっておかしいですよ。さっき言った一発一千万の根拠も、これはなかなか出てこない。では、中国は、一発一千万だったら、四十万発だったら四兆円になるのか、こういう話でしょう。これ全体に関して、大臣、こういう議論を聞いていて、御所見をお伺いしたい。

高村外相 はつきり申し上げて、よくわからなかったというのが率直なところでございますが、委員の指摘を踏まえ、政府側はしっかりやらなければいけ

ないな、こういうふうに考えております。

—松原議員 よくわからなかったと。

わかるように言ったつもりなんだけれども。わかるつもりじゃなきゃだめなんですよ。これは中国と日本との間の話で、もつとでかい話になってきているわけだから、まず積算根拠だって明らかにしてもらわなきゃいけないし、誠心誠意、やはり国民の血税を無駄にしないという観点から、大臣にも汗を流していただきたい。

高村外相 誠心誠意、国民の血税を無駄にしないという観点から、私を含めて、政府側全員、しっかりやってもらいたい、こういうふうに思います。

◆国益上の重大な危機

この問題には国益上、重大な危機を感じています。日本がすべて遺棄したもののなか、どうか、問題の本質を曖昧にしなすまで、巨大な利権を作りあげ、それを中国と日本の天下り官僚や関係企業が分け合っているように見えます。まる

で、「中国の利権まで丸ごと面倒見ましょうか」と日本が言っているようなものです。これではしっかりと国民に説明できません。

そもそも、日本の官僚には、「どうしても日本軍が化学兵器を中国に遺棄した」としておきたい意図が見受けられます。しかし、新たな資料も見つかっており、科学的に徹底した調査をやるべきなのです。そして真実を明らかにしなければなりません。もしアメリカが日本の立場だったら、絶対にこんないい加減なことでは済ませないでしょう。

私はこうした問題は、政党の枠を超えて取り組むべきだと思います。中国は国家プロジェクトでやっています。日本は国益のためにどれだけ金をつかってやる気があるのか、ということですね。これは日本人の先人の名誉にかかわる問題です。先の大戦で国のために死んでいった特攻隊員がいまの状況を見て、どう思うでしょうか。「死に相応しかった」と思えるでしょうか。我々はそれを考えてこの問題に取り組むべきです。